



本日は、アメリカにおいて、新しいデジタルの時代に放送事業者がどのように取り組んでいるかをお話したいと思います。それはこの業界が活気ある未来を確保するために、NAB が支援をしているということです。放送事業者の利益のためにアメリカ政府に対して交渉を重ねて参りました。これは放送事業者が継続して技術革新に取り組み、地域社会に対して貢献し続けることを目的としています。日本にやってきて、特にうれしかったのは、アメリカと日本の放送事業者が協力して、チャンスを生み出しているということです。放送事業者がいろいろなアイデアを交換し、イノベーションを共有していくということです。正に放送というものに国境はないわけです。私たちは国民のために、市民のために、不可欠な他に置き換えることのできないサービスを提供しています。ひとつのところからアンテナで発信し、全くコストを掛けずにアンテナで受信することができるわけです。インターネットとの違いは皆さんに焦点を当てているということです。情報やエンターテインメントを提供し、また緊急事態の警告、警報を流すことも重要です。台風や地震その他の自然災害あるいは人災においても同様です。日本においても放送の役割は同じだと思います。毎年ラスベガスの NAB ショーに 1,300 人もの方が日本からご参加いただいていることに感謝します。

今、放送とブロードバンドが融合し、コンバージェンスの力が生じています。新しい力が放送事業者の力を更に拡大して、いつでもどこでもどんな形で視聴者の望む形で情報提供ができるわけです。天災の時にはモバイルデバイスが使えなくなってしまうことがよくあります。そういった事態では、放送事業者のテレビ、ラジオが使われます。またテレビ局の HP やデジタルアップといったソーシャルメディアから情報を得ているということも調査結果でわかっています。私たちの世界はネットにつながり、より自由な形で情報を収集で

きるようになってきています。従って、情報ソースとなる放送の役割はより重要になってきています。最近ハリケーンフローレンスがノースカロライナ、サウスカロライナを襲いました。この時放送局が非常に重要な役割を果たしました。地域住民に最初に情報を伝えたのは放送局であり、24 時間休まずコミュニティが必要とする情報を提供し続けました。ハリケーンやトルネード、洪水の情報などを、正に住人のライフラインとして提供し続けました。これこそが住民に対するコミットメントであり、これがアメリカのテレビ、ラジオの放送事業者が新しいテクノロジーにイノベーションを起こし、技術に投資していく源となっているのです。また OTT の事業者を通して、コンテンツをインターネットに接続しているデバイスからゲームやタブレット、スマートフォンといったデバイスを活用していくことも可能です。これらのことは放送事業者のビジネスモデルを大きく変革させています。これによって大きな選択肢を将来に向かって提供していくこととなります。もちろん日本がその中で世界をリードしているわけですが、例えば日本には 8K サービスがあります。これは HDTV の解像度の 16 倍であり、音声は 22.2ch を提供しています。正に驚くべきものです。更に驚くべき事は、NHK は 12 月 1 日から 8K 放送を家庭に直接送り届けることです。私たち放送事業者の一つの選択肢は、新しい配信プラットフォームを採用し、新しい聴衆が生まれ彼らとエンゲージメントすることです。私たちの強みを活かしながら、新しいテクノロジーを上手く活用することで、私たちに新たな進化、活気ある将来がもたらされるわけです。我々はライブであり、ローカルであり、ターゲット化しています。また最も信頼できる情報源としてニュースや様々なイベントを紹介し、社会に対して大きな影響を与えています。

一方で次世代テレビ Next Generation TV があります。これは世界で初めて放送事業者のスタンダードとして、放送とブロードバンドのメリットを提供するものです。この Next Generation TV によって、超高解像度のテレビを視聴者に届けることができ、ハイダイナミックレンジやフレームレートの高い映像とマルチチャンネルのオーディオ、インタラクティブサービスが可能なコンテンツも提供できるようになります。視聴者はより多くの選択肢とカスタマイズ可能なコンテンツを既存のテレビチャンネルで受信できるようになります。次世代テレビによって地上波放送と衛星放送のシームレスな融合ができます。スペクトラムの価値と効率性を上げるということです。アメリカにおいてはワイヤ

レスブロードバンドサービスのキャパシティの拡大、5G のインターネットサービスの開発を重視していますが、放送は 5G においても役割を果たすことができると思います。ブロードバンドと放送の融合は先進的な放送の要素です。次世代のテレビは IP をベースにしています。このシステムはシームレスにインターネットと伝統的な放送のコンテンツを融合するものです。次世代テレビの柔軟性の上に地上波の放送が持続的に進化するものと思われます。放送事業者は視聴者に対して継続的によりよいコンテンツを送って参ります。

放送というものは、そのスペクトラムに依存していますが、これはコモディティーのようなものです。即ちモバイルのブロードバンドサービスでもこのスペクトラムを使っています。政府がこの放送用のスペクトラムをモバイルのブロードバンドに再配置しています。その結果、昨年政府は 1,000 のテレビ局に対して新しい周波数に移行させています。このことがこの 2 年の間に起こってきます。周波数の再配置によってアメリカの放送局はより少ないスペクトラムで効率良く放送を行わなくてはならなくなりました。残ったスペクトラムの効率、価値を高める必要があります。次世代のテレビが我々に対してより良いサービスを提供することが求められているのです。

新たな実験も行っています。それが ATSC3.0 の標準を生み出しました。多くの刺激的な発展が放送業界の技術で起きています。我々はこのイノベーションに刺激を受けております。新たな技術を使って素晴らしいコンテンツをリスナー及び視聴者に提供できる時が来ているということです。放送事業者やメディアビジネス従事者は AI を使ってコンテンツの作成、配信もできます。番組制作後のフローの効率化を実現することもできます。

我々の放送事業者としての最大のミッションとは何でしょうか。それはコミュニティーへの奉仕、災害時の人名救助情報、そして民主主義を守る、その理想を守るということです。更にジャーナリズムの表現の自由です。これが我々放送事業者の心の中心にあるものです。我々は視聴者に対してこれを無償で提供しているわけです。デジタル技術の道りはこの先長く続くと思います。その中でジャーナリズムの役割はこれまで以上に重要になっております。そのために我々はここにいるのです。それが私たちの国民に対する義務です。そして新しい技術に対して持続的に投資をすること、そのことがより良い仕事につながるのです。本日はありがとうございました。

## 【パネルディスカッション】



### 【モデレーター】

上智大学文学部新聞学科 教授 音 好宏 様

### 【パネラー】

早稲田大学理工学術院 教授 河合 隆史 様

日本放送協会 専務理事 技師長 児野 昭彦 様

全米放送事業者協会会長 ゴードン・H・スミス 様

音教授 「まず、スミス会長の講演をお聞きして、お二人から感想、ご意見をお聞かせください。

河合教授 「メディアに関わる人間としての本質部分から最新の技術トピックまですごくきれいに繋がっており、感銘を受けました。日本では 4K、8K が変革につながると思いますが、今のお話しを伺うと常に色々な場面で変革が起きているという内容でした。今後もテレビは更に発展していくとお考えですか。」

スミス会長 「私の考えですが、アメリカは 4K、更には 8K にいくと思いますが、そのためには ATSC3.0 への移行がなくてはなりません。と言いますのも空きのチャンネルがアメリカにはもう存在しないからです。1.0 から 3.0 に移行するには物理的に不可能な状況があります。FCC によって移行が可能になれば、アメリカの視聴者もより良い画像、イマーシブなサウンド、そしてモビリティを好むと思います。また、ターゲット化された広告、番組ができると思います。但し、まだまだ移行のためには時間が必要かもしれません。」

スミス会長 「政府、規制当局の注目を引くためには、またアメリカ国民がそう思うようになるためには、8K/4K によって画像を改善することだと思います。例えばスポーツ。アメ

リカ国民は野球が大好きです。あるいはアメリカンフットボール、バスケットボール、ゴルフといったスポーツ番組が大好きです。日本の皆さんもそうだと思いますが、4K/8Kの方が映像が素晴らしい訳です。アメリカ政府はまだ学んでいる段階ですが、プロフェッショナルのリーグ、また政府がそういった画像を見る事により、議会も推進してくると思います。」

音教授 「ここでパネリストのお二人に講演をお願いします。」

—河合教授講演『先進映像と人間工学』—

- ・2D と 3D では同じ画面でも注目する部分が異なり、これを VR 等に応用することによって、より自然に見えるコンテンツ作りが可能となる。

—児野技師長講演『放送メディアの発展』—

- ・スーパーハイビジョン放送（4K・8K）が12月1日より開始となる。
- ・放送以外の領域での利活用も盛んになる。
- ・IP化を含む多様な伝送路で「公共的価値」の実現を目指す。

スミス会長 「とても興味深い内容でした。特に河合教授が技術と人間のインタラクションがあるということ。技術の変化によって人間の行動も変わるということ。また児野技師長が話されたオリンピックが東京で行われることは、素晴らしいチャンスだと思います。是非日本と協業させて頂きたい。アメリカ国民はオリンピックが大好きですから、ものすごい視聴者の数になると思います。4K/8K 放送の素晴らしさを証明するチャンスだと思います。」

河合教授 「映像が人間の視力を超えるところまで来た。これからは映像が人間を進化させる時代になるのではないか。オリンピックなどのビッグイベントで多くの人たちが超高精細度の映像に触れると何が起きるかを科学的な観点で見ていってどう捉えていくのか、どのようなメリットとその先を見ていくのか、ということに興味を持っている。」

音教授 「アメリカではメディア再編が行われている中で、インターネットの領域で放送と

同じようなサービスが進んでいます。放送の公共性が共通の議論として上がってきましたが、今後の放送のプレーヤーとしてのあり方について、少しだけコメントを頂けますか。」

スミス会長 「放送に携わるものの役割は、日本でも同じですが、ニュースソースを国民に提供するという事です。ブロードバンドという技術で一つのニュースソースを更に多くの人に伝えることができるようになりました。国を超えて、我々はより緊密に結びついています。インターネットではフェイクニュースが問題です。放送はそうであってはなりません。そのためにより良いコンテンツを提供したい。放送業界はデジタル時代に役割が更に高まっています。我々の役割、即ち民主主義の自由を維持するという事です。それはジャーナリズムの自由です。ジャーナリズムのパワーが高まる中で、放送局の役割は更に高まると考えます。」

【NAB スーザン・キーノム副会長講演】2018/10/04



NAB は放送が始まると同時に設立され、約 100 年の歴史の中で、各地域の放送事業者を支えることを活動の目的としてきました。放送のミッションはコミュニティーを支えることです。災害時に救命情報を伝えること、ニュース、スポーツ、天気予報、エンターテインメントを信頼できる情報として日々視聴者に伝えることです。自由と民主主義を支えるメガフォンの役割も果たしています。先日、日本に台風が上陸しましたが、アメリカでも南東地域をハリケーンが襲いました。このような時には地元の放送局が提供するライフラインともいえる情報が頼りになります。放送局は情報提供者としてそのような役割を真剣に受け止めています。アメリカのラジオ、テレビの放送事業者は技術革新に

投資をし、地域コミュニティへの役割を更に果たそうとしています。放送事業者の使命感は他の媒体とは異なっていると考えます。今回の短い滞在の期間中、放送事業者やその他メディアのプロフェッショナルな方々とミーティングを持ち、技術革新や問題点を話し合うことができました。

私たちは世界各国の放送事業者と高度な技術革新に関する協力関係を築いています。NABとEBUは56カ国から119のメンバーと非公式に様々な課題について議論を進めています。これは放送事業者をサポートすることを目的としています。NABとEBUの技術部門は長年にわたり様々な分野での標準化の努力を進めています。その他、World Broadcasting Union、International Telecommunications Union、Future of Broadcast TVなどとも協力し合っています。現在は放送事業者にとって、チャレンジングでエキサイティングな時代だと思っています。インターネット技術への転換やこれまでと違った配信プラットフォームへの新たな技術革新は私たちにビジネスモデルの再構築を迫っています。また異なるツールや技術を融合し、このデジタル時代に新しいビジネスの機会を捉えて成功に導かなくてはなりません。アメリカの一部の放送局ではATSC3.0を使用した次世代TVの検討を始めています。韓国の放送局では既に採用しているところもあります。次世代TVはUHDTVやインタラクティブ機能、コンテンツのカスタマイズ、奥行のあるマルチチャンネルサウンドも提供できるようになります。次世代TVによって緊急事態に情報を常に受信でき、視聴者にアラームを発信し、公共的な警報を地域別に届けられるようになります。また双方向性やモビリティにも対応します。

次世代TVを開発するにあたり、中心的な役割を果たしたのが、7年前に上海で設立されたFuture Broadcast TV Initiativeでした。日本を含む70の組織が参加し、デジタルTVに関し、グローバルな情報交換を行い、将来実現可能な共通プラットフォームについて話し合いました。参加者はそれぞれの使用例を紹介し合い、次世代TVに取り入れられる技術を話し合いました。このグループは、次世代TVのゴールを2-3年後に定めています。私たちはこのグループと連携し、将来のビジネス拡大を目指していきます。仕様が統一されることでコストを低減し、より満足できるサービスを視聴者に提供できるものと考えます。

アメリカの著名な発明者トーマス・エジソンがこのように言っています。「先人がやり残したところから始め

よう」この言葉は、私たちの協力や新技術の開発が生活の向上に必要だということを思い起こさせてくれます。この協力しあう精神は、日本とアメリカの両国で見受けられます。放送事業者たちは先人が残してくれたところから課題を拾い上げ、TVとラジオを視聴者がどこにいても利用できるものに変革しようとしています。すべての新たな技術が放送事業者にとって事業を変革し、無償で高品質のLiveコンテンツを視聴者に届けることにつながるのです。私たちは引き続き来年のNABショーで、日本の友人たちとディスカッションを重ねることで、よりよい未来を築き上げることができると思います。

日本に来る前には、このスピーチ原稿を読んで、まずまずと思っていましたが、こちらに来てから思った以上に技術が進んでいることを垣間見て、このスピーチでは皆様に満足して頂けなかったかもしれないとも思っていますが、少しでもお役に立てたとしたら幸いです。今回は本当に印象的な経験をさせていただきました。引き続きここにいる皆様と今後とも仕事を続けていければと思います。

ありがとうございました。